

Op.47

銀の夢

はらり ふわり
風に揺られて 白埃^{しろほこり}

ひらり ほろり
道に積もって 片栗の粉

白い瓦画^{がかく} 御伽の家
滲み 乱れて 苦み 舌上

引き締まる 極寒の風
眩しい世界 刺激 網膜
光争む 古の記憶

灰色の空 透ける陽光

はらり ふわり
風に 揺られて 白埃

ひらり ほろり
道に 積もって 片栗の粉

枝葉 ^{せきじん} 積塵 ^{はっかい} 白塊 崩落
踏み 締めて 現実 足形

引き締まる 極寒の 風
乾冷の 世界 火照る 頬
煌めき 告げる 今 秒刻

ふわあり ひらあり
風に 揺られて 白 埃

頬 桜色

銀 の 夢

Op.48

浄化～Katharsis～

進めや 進め

狂った時針 早回しの時計

進めや 進め

狂った感覚 方向なき前進

剥き出しの 果肉

電線の鴉 気づかず 啄まず

ひび割れた 果肉

水辺の鴨 気づかず 啄まず

ただ流れ 流れ 流れて

流れ 流れて

ただ 流れ 流れ流れて

流れて 流れ

潰せや 潰せ

狂った果実 冥王星

潰せや 潰せ

狂った点軸 青輪^{コラール}の聖歌

剥き出しの 果肉

往来の車 寄らず 触らず

ひび割れた 果肉

晩冬の陽射し 灼かず 溶かさず

日暮れ間近

西陽の尖針

見えぬ刺し跡

流れぬ果汁

Op.49

好虐

四方に伸びる道
足元に置かれた街
地表を灰に埋める街々

八方に流れる血脈
靴裏が擦る灰色の瘡蓋^{かさぶた}
承継のない傷痕の集まり

地表 なだらかな隆起

地上の銀河 無数の点

抱え続け あるいは手放し
人は皆 光らぬ点の採集者

点から点へ 点から点へ

絶え間のない 点間の移動
時間の軌跡 無脈の葉々

やがて消える 楕円
瞬間 塗り潰される地表
歴史の塗り絵 無色の塗り絵

四方に伸びる 道

目的にのみ 生かされる道

頭上の電線

不可視の電波

原罪

時々の御用縄

Op.50

夢彩のワルツ

遙か見えぬ先の先
たぐる糸 沈黙の軽さ
風に吹かれ 白垢の桜斑

遙か見えぬ先の先
たどる足 無濁の霧中
風に吹かれ 錆色の垣根

未だ見えぬ先の先
たぎる生命 感覚の放熱
風に揺られて 路傍の菜花

未だ見えぬ先の先
たわむ心筋 意志の法則
風に揺られて 綿毛の無数

夢彩の有彩

醒めた有彩